



京都 YWCA

7 2019

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

京都 YWCA 保育園開園に向けて



1923年に設立された京都YWCAは2023年に設立100周年を迎えます。キリスト教の精神を土台に、「一人ひとりを大切に、共に生きる社会」を希求しながら、女性たちがその伝統と文化を築き、世代から世代へとつないできました。

時代の変化の中で何をなすべきかを絶えず模索し、さまざまな事業や活動に取り組んできましたが、このたび新事業に挑みます。会館の敷地の一角に園舎を建て、2020年春より京都市認可の保育園（定員60名）を開始する予定です。

「多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業」が教えてくれたこと

現在、京都YWCAでは「多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業」を推進しています。これは既存の事業や活動に、2014年以降に開始した女性向け高齢者住宅、ふれあいの居場所食堂、自立援助ホームを融合させた事業です。長年続けている活動には、親と子どもの育ちを応援する活動、多様な文化的背景をもつ人々との共生に向けた活動（多言語相談、日本語学習支援、留学生との交流など）、非暴力・核否定に基づく平和を創る活動などがあります。

この「ふれあいコミュニティ事業」の中で、特に社会的養護を必要とする若い女性のための自立援助ホームの運営経験を通して、乳幼児期の生育環境がその人の後の生き方に大きな影響を及ぼすことに気づき、子どもやその家族を支援することの重要性を知りました。保育園事業はその意味でYWCAが培ってきた経験や人材を活かせる場でもあります。

YWCAを開いていく

保育園の開園により、平日にボランティアと働く女性が日常的に会館で会うこととなります。これはYWCAの枠をさらに大きく地域社会に開いていくこととなります。

保育園は切実な社会ニーズに応え女性の社会参画を支援するものであり、女性や子どものエンパワメントをめざすYWCAにとって理念に沿う事業です。この確信を得て、十分な準備をした上で2020年春の開園をめざすことにしました。

愛される存在としての子ども、「違い」は豊かさ

京都YWCAの経験を活かした保育園を創っていくため、2017年より各委員会からメンバーを募ってプロジェクトチームを組み保育園像を練ってきました。

京都YWCAの保育園の基本的な考え方は、「国籍、言語、文化、宗教、障がいの有無などの違いは豊かさを生む」ということです。保育の方針は、「一人ひとりを愛される大切な存在として、命を大切に、共に生きること、違いを認めること」、「子どもの意思決定と自己表現を尊重すること」です。また、保護者に寄り添うことも京都YWCAの今までの経験を活かせる分野だと思われます。

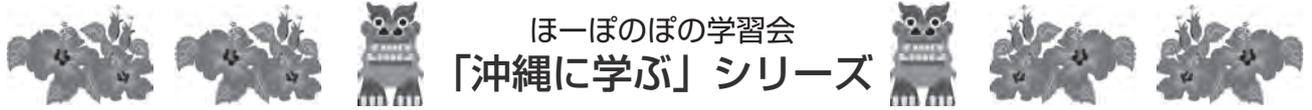
未来へ繋いでいくために

未来を担う子どもたちをお預かりし、その家族と共に次の世代を育んでいく機会を得ることは、責任の重さを感じると同時に大きな喜びでもあります。現在、各委員会で自分たちの活動や事業をどのように具体的に保育園事業に活かしているかを検討しつつ開園に備えています。

保育園の名前は「京都YWCAあじさい保育園（仮称）」としました。さまざまな色の小さな花（がく）が寄り添って咲いているあじさいの様子を「共生」と「多様性」のシンボルとして園名に採用しました。

子どもとその家族に寄り添い、人々の豊かなふれあいのある保育園をめざして準備を進めている私たちに、皆さまからのご支援を心よりお願い申し上げます。

（代表理事 上村兪巳子）



ほーぽのぽの学習会 「沖縄に学ぶ」シリーズ

2019年度の京都YWCA平和・環境委員会に属する「ほーぽのぽの会」のテーマは「沖縄に学ぶ」です。沖縄の人たちに対する政権からの暴力に憤りを感じながらも、その構造的差別に加担している私たちが、沖縄の歴史や基地問題、なにより沖縄の人たちに対する差別・暴力にどう向き合うのか、そういった思いを持ちながら、1年間学んでいくことにしました。

第1回目として5月25日（土）に沖縄のガンジーと呼ばれた阿波根昌鴻（あはごん しょうこう）さんが生前、その思想や歴史を語ったビデオ『教えられなかった戦争・沖縄編』を鑑賞しました。若いころに移民として渡った南米で、「人として、共に生きる」ことに思いを巡らせた阿波根さんは帰国後、一燈園*の西田天香や賀川豊彦、内村鑑三などに学び、戦前から伊江島で農民のための学校の建設に取り組みました。しかし伊江島の土地は沖縄戦で破壊され、戦後は米軍の「銃剣とブルドーザー」により奪われるというひどい暴力に、阿波根さんたちは非暴力の闘いを挑み、その姿勢は一貫して変わらなかったそうです。

学生時代、大学生協主催の沖縄平和の旅へ参加したことが、私が平和を求める活動へ関わる原点ですが、その時、伊江島を訪ねるコースがありました。私はほかのコースを回ったのですが、仲間が「おもしろいじいちゃんだった」といっていたその人が阿波根さんだったと後々知り、お会いできなかったことを非常に残念に思います。

現在も沖縄の人たちの自己決定権は奪われています。そんな中、新たに公正な民主主義のもと、日本全国で米軍基地負担をゼロベースから検討しよう、という「新しい提案」も沖縄の人たちから発信されています。今後はそういった課題も話し合ってみたいと思います。そしてできれば実際に沖縄へ行って、いろいろな人と出会い、次の行動に移していきたいと考えています。

学習会は隔月ペースで開催の予定です。関心のある方はぜひご参加ください。
(今井貴美江)

*一燈園…1904年、西田天香が創始。常に懺悔の心をもって、無所有奉仕の生活を実践している。

2019年度イースター集会&世界YWCA 会員日集会 若い女性を応援する組織をめざして

京都YWCA ミッション推進活動運営委員会では、昨年度から次世代へつなぐ「ユースとの協働」「ユース育成」をテーマに話し合ってきました。3月23日室町教会で行われたイースター集会と世界YWCA 会員日集会にも、それが反映されました。イースター集会では同志社女子中・高等学校YWCA 顧問の生田香緒里さんにメッセージを頂き、世界YWCA 会員日集会では、同校YWCA メンバーによる活動紹介、横浜YWCAのユース会員による報告も分かち合いました。集会後には京都YWCAに連なるユース10名と、たこ焼き交流会も行いました。参加者からの声を掲載します。

横浜YWCA 大久保紗佳／ちろる

特に印象的だったのは、集会の中で京都YWCAの活動について聞いたことでした。自立援助ホーム「カルーナ」や高齢者住宅「サラーム」、留学生のための「あじさい寮」に加え、今後保育園もスタートするということを知り、京都YWCAが「多世代多文化」の「セーフスペース」としての役割を実践的に担っていることを実感しました。

私も集会の中で、昨年の夏にボランティアリーダーとして参加した「ひろしまを考える旅」について報告をする時間をいただきました。「ひろしまを考える旅」には「大人→こども」「経験者→被経験者」という構図が無く、世代を超え一緒に考えられる場だったということと、旅の準備の過程で感じた議論しあえる仲間がいる心強さや安心して議論できる場の大切さについて、お話をいただきました。私自身にとっては、改めて旅を振り返り、自分の考えを見つめ直す貴重な機会でした。

集会後のたこ焼きパーティーでは、京都YWCAに連なる同世代の仲間たちに出会い、わいわいたこ焼きを作ったり、ゲームをしたり、おしゃべりしたり、とっても楽しい時間を過ごさせてもらいました。また会える日を楽しみにしています！

京都YWCAに伺うのは今回が初めてでしたが、みなさんが温かく迎え入れてくださり、とても居心地がよかったです。ありがとうございました。



「ひろしまを考える旅」の報告中



また会いたい～ユース参加者たち

シリーズ ▶ やっています！こんなこと⑧

親と子のリズム遊び

「親と子のリズム遊び」では月2回、0歳から3歳のお子さんとその保護者が集い、スタッフを含め大人も子どもも一緒に、ピアノに合わせて歌いながら体を動かしています。「もしもしカメよ、カメさんよ〜」、ホールから聞こえる子どもたちの可愛い歌声に、思わず顔がほころんだ方も少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか？

通い始めはハイハイがやっとだった子どもたちが、歌いながら涼しい顔でブリッジできるようになったり、得意げに片足立ちトンボのポーズを見せてくれたり、元気いっぱい走り回っているのを見るたび、光と温かさに満ちたパワーをもらい、なんとも幸せな気持ちになります。

ただ「みんなで上手にリズム遊びをする」ということがゴールではないので、手取り足取り動きを教えたりはしません。まずは保護者の方にリラックスしていただき、みんなで緩やかにその場を共有すること、自信がなくて輪に入れなくても、庭が気になってリズムどころではなくても大丈夫、ありのままを受け入れて同じ空間を共に過ごす喜びを感じることに。その上で一緒にリズムができたらもっと楽しいよ、というメッセージを繰り返し伝えているうちに、まずは大人が、ついで子どもが自然とリズムの輪に入ってきてくれます。



輪になって笑顔

保育園が開園されたら、園児さんたちの日々の保育にリズムを取り入れていただけたらいいな、と考える一方、保護者と未就園児が和やかに集う、今のリズム遊びの雰囲気なくなってしまうのは惜しい。例えば育児休業中の保護者の方がリズム遊びを通して京都YWCAの理念や佇まいに親しんでくださり、そこをきっかけとして保育園にも関心を持っていただけたら理想です。

卒業生とその保護者、そして居場所を求め辿り着いてくださる方々のため、リズム遊びがこれからも京都YWCAにあり続けられることを願っています。

(親と子のリズム遊び講師 赤尾陽子)



ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」へようこそ！



京都YWCAの「うららかふえ」は、どなたでもほっとしていただける「ふれあいの居場所」を目指して2014年9月にオープンしました。ウィリアム・メレル・ヴォーリズ的设计した趣ある洋館「サマリア館」の一室で、火曜日から土曜日までの週5日、日替わりランチと手作りのお菓子・フェアトレードのコーヒー等を提供しています。

お客さまは、京都YWCAの高齢者住宅「サラム」にお住まいの方、京都YWCAのプログラムに参加される方、近隣にお住い・お勤めの方等々、幅広い層にご利用いただいております、30～40食のランチが短時間で売り切れてしまう日もしばしばです。また、「絵本かふえ」や「手話かふえ」などテーマを設定して企画している日もあり、心温まる「居場所」の取り組みが少しずつ定着しています。

うららかふえで料理や接客を担うスタッフは、基本的にボランティアです。職業体験で訪れる中学生や、高校生・大学生もおられますし、普段は職場で働いておられる社会人・主婦・リタイア後の方等、年齢・性別・国籍も様々です。これまでに100名をゆうに超える方々がボランティアに参加されています。また、京都府の「若者就職支援等推進事業」の事業所認定を受けており、京都YWCAの自立援助ホーム「カルーナ」の利用者や元利用者、日本語の学習支援を受けている多文化ルーツの子どもたちを含めた若者が「働く」という体験ができる貴重な場となっています。



今だけの眺め（サマリア館）

そんなうららかふえは、建物が庭の奥に位置しているため、表からはちょっとわかりにくいという難点があります。このたび、ホールの解体に伴って「サマリア館」が表通りからよく見えるようになりました。昼間はもちろん、夜になって明かりがともっている姿も私はとても好きです。保育園の園舎建設が始まると、残念ながらまた表通りからの視界が遮られてしまいますが、今しか見られないこの風景を多くの方にご覧いただき、うららかふえにもお立ち寄りいただければと思います。

(御前麻里)

映画紹介

バジュランギおじさんと、小さな迷子

底抜けにお人好しなインド人の青年と、声を出せないパキスタンからやって来た迷子の少女との二人旅を暖かく描きます。1947年イギリスからの独立をきっかけにして、宗教の違い（ヒンドゥー教とイスラム教）やカシミールの帰属問題などから延々と対立が続いているインドとパキスタン。しかしこの映画は、両国の人々の日常がともに「祈り」に満ちており実は平和と調和を求めていることを笑いに包んで描こうとしています。カシミールの砂漠地帯や雪に覆われた山岳地帯、両国の音楽にも心惹かれます。(制作 2015年インド)



新職員紹介

2019年2月より職員としてお世話になっております、木下和江と申します。1月末まで大阪YWCAに勤務していましたので、新人のように新人でない、微妙なところですが、京都でもたくさんの方々と一緒にできますことを大変嬉しく思っています。主には総務ですが、広報や留学生寮等の担当もさせていただきます。まだまだ不慣れでご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いたします。(木下和江)

ご寄付ありがとうございました

2019年4月1日から5月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

田畑亜希子

松岡由香子、森本純代、齊藤洋子、竹岡哲朗、中村美智子、定本ゆきこ、福嶋節子、井上依子、寺尾鈴子、出口玲子、竹内二三、井上摩耶子、小杉總子、亀田和代、小泉小枝、伊東真喜子、伊部恭子、御前明美、江川みゆき、佐野千枝子、小寺敬子、森川純代、森本純代、神門佐千子、西村雅樹、大賀幸一・郁子、定本ゆきこ、伊原千晶、館山英夫、弘中奈都子、小杉總子、大手理絵、堀部碧、あらんの家

各指定寄付

*未来応援募金

宮武美知子、手島千景、勝山久仁子、清水義、池上信子、本田次男、木下和江、野いちご、有田孝子、關つぐみ

*多文化共生委員会

織田雪江、イエニックふたみ

APTへ

大畑泰治郎、藤原久子、林律、リンバヤラ スプラーニー、神門佐千子、上原従正、清水弥生、大津恵子、本田次男、京都・東九条 CAN フォーラム

社会福祉法人西陣会 日本聖公会京都教区京都伝道区信徒伝道協議会 應典院

*自立援助ホーム「カルーナ」 *賛助費

井上摩耶子、桑畑祐治、山崎美和子、山上義人、実生律子、小林裕彦、

岡昭男、吉田繁、日月公子、小林聡、清水義、小川久美子、小室京子

「京都YWCA未来応援募金」へのご協力をお願い

「未来応援募金」として2種類の募金を実施しています。ご協力をお願いいたします。

◎京都YWCA未来応援募金—保育園備品募金

保育園の備品等の購入をご支援いただく募金です。

◎京都YWCA未来応援募金—「れんが」プロジェクト(期間・数量限定)

ヴォーリズのレンガ塀から耐震のために取り除いたレンガを新しくできる門の周辺に敷き詰めます。

1口:5000円/レンガ1枚 募金期間:2020年2月まで

郵便振替 01080-9-1566 加入者名 公益財団法人京都YWCA

*通信欄に「未来応援募金保育園備品募金」あるいは「未来応援募金れんがプロジェクト」とご記入ください。

京都YWCAへのご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。 http://kyoto.ywca.or.jp/support



5・6月/理事会報告

- 会館改修工事(煉瓦塀変更、耐震壁設置、ホール解体、本館外壁補修)がほぼ終了。
●高齢者住宅サラムの居住者と多文化共生委員会が支援する家族や会員との春の交流会として、府立植物園散策とランチの会を実施(5/25)。
●保育園園舎建設の入札のための現場説明会(5/10)および入札会(5/31)を実施。
●第8回保育園プロジェクトチームミーティング開催。カフェやリサイクル活動の保育園への活かし方等を協議。(6/8)
●保育園準備チームが保育方針、保育概要を決定。設備・備品面でタスクチームを組んで準備を進めている。7月にリニューアルを予定しているホームページで保育園に関する情報を掲載。
●今秋(11/30)アストロリコ・四重奏とダンスカップル亮&葉月によるチャリティコンサートを府民ホール・アルティにて実施。7月よりチケット販売開始
●ボランティア説明会を実施(6/8)。今後、9月、12月、3月にも実施予定。

KYOTO YWCA No.551 2019年7月号(7月1日発行)

発行人:上村愈巳子

発行所:公益財団法人京都YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上上ル近衛町44

電話:(075)431-0351

FAX:(075)431-0352

e-mail:office@kyoto.ywca.or.jp

HP:http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替:01080-9-1566

口座名義:(公財)京都YWCA

定価:1部50円

発行:奇数月1日発行